

公益財団法人 東京社会福祉士会
実践研究大会 2017 報告書

公益財団法人 東京社会福祉士会
実践研究大会運営委員会

1. 開催趣旨

専門職である社会福祉士にとって、社会福祉の振興発展は、いわば使命ともいうべきものであり、つねにそのために活動しているといっても過言ではない。

しかし、その体現に資するべく発揮する技術、たとえば社会福祉援助技術などは、その再現性の低さや個性の高さなどから、エビデンスや客観性に乏しいなど、不本意な評価を受けることも少なくない。

そのような不本意な評価は、科学的・研究的視点に基づく実践と、その適切な検証作業を行うことによって払しょくすることが可能と確信するが、その機運を醸成させるには、適切な発表の場を設けることが極めて重要であり、また、適切な実践を公表していくことも、専門職の役割の一つであろう。

このような発表機会を設けるのは、専門職団体である公益社団法人東京社会福祉士会の責務であり、この開催により、社会福祉士の資質向上に寄与し、もって、日本、及び東京における社会福祉の振興発展を企図するものである。

なお、この実践と検証という活動は、単年度で終わるものではなく、継続して行うことが重要であることを付記するものである。

2. 目的

社会福祉に関する実践研究・活動報告等を行うことにより、
本会会員の、

- 1) 社会福祉の実践を学術的な観点で研究・検証することで、資質向上に寄与する
- 2) 社会福祉の実践を学際的な活動に発展させることができ、総体の向上に寄与する
- 3) 発表に基づくディスカッション等により、発表者へフィードバックが得られる
- 4) 他者の実践を参考に、自らの実践に気づきを与え、新たな展開に発展させられる
- 5) 社会福祉士の実践を広く周知することができ、社会福祉士の地位向上に寄与する及び、
当会の活動である、
- 6) センター、委員会、事業、地区会の活動を内外に広く伝え、説明責任を果たすことを
目的とする。

3. 実施概要

- ・開催日時 : 平成30年 2月10日(土) 午前10時~午後5時
- ・開催場所 : 北とびあ(東京都北区王子1-11-1)
- ・開催テーマ : 私たちが伝えたいもの -東京のソーシャルワーク実践から-
- ・開催規模 : 300人規模

4. 実施内容

1) 基調講演（10：05～11：30）

- ・講師：高良 麻子 先生（東京学芸大学 教育学部 社会科学講座 教授）
- ・演題：ソーシャルワークの実践研究の意義と方法

2) 分科会

①7階 701会議室

・12：30～【活動報告】

演者：福島復興支援事業

演題：『戸別訪問による都内避難者に対する社会福祉士の役割』

－東京社会福祉士会の福島県復興支援事業から見てきた避難者支援の在り方－

・13：00～【実践報告】

演者：林 恵子

演題：『がん分野における両立支援コーディネーターの実践』

－ソーシャルワークの視点から－

・13：30～【実践報告】

演者：相馬 美穂

演題：『多職種協働による福祉用具活用相談について』

－一般社団法人福祉用具活用相談センターの設立とその取り組み－

・14：00～【研究報告】

演者：大島 了

演題：『国際化社会における民生・児童委員の相談資源の認識に関する考察』

－ソーシャルワーカーが意識したい民生・児童委員と外国籍住民の相談資源の認識－

・14：30～【実践報告】

演者：佐々木 昭夫

演題：『意思決定能力のアセスメント方法について』

－自らの実践を振り返り可視化を試みる－

②7階 第2研修室A

・12：30～【活動報告】

演者：司法福祉委員会

演題：『東京社会福祉士会と東京三弁護士会との連携による、入り口支援と判決後支援』

・13：00～【実践報告】

演者：低所得者支援委員会

演題：『三大寄せ場（寿町・釜が崎・山谷）

フィールドスタディから見てきた格差・貧困問題の考察』

・13：30～【パネルディスカッション】

就労支援委員会・障害者支援委員会

『障害者が働くということ』

③7階 第2研修室B

- ・12:30～【ワークショップ】

電話相談事業研究開発委員会

『ここをつなぐ安心電話ふれあい体験、ロールプレイ、相談業務のヒント』

- ・13:30～【パネルディスカッション】

子ども家庭支援委員会

『子ども家庭領域における当事者から求められているソーシャルワーク機能は何か』

ー社会福祉士が担うソーシャルワーク機能の拡張ー

④6階 ドームホール

- ・12:30～【制度紹介】

生涯研修センター：『新たな認定社会福祉士への道』

- ・13:00～【パネルディスカッション】

地域包括支援センター委員会

『尊厳の保持と自立支援、そして地域共生社会』

ーソーシャルワーカーとして社会福祉士の役割を考えるー

- ・15:30～【シンポジウム】各教室からの報告

⑤7階 第1研修室（12:30～15:00）

【ポスターセッション】

発表：渡嘉敷 直康（帝京平成大学）

演題：『外国ルーツ者支援への展望』在留資格と文献研究等を通じた一考察

【個別相談】

生涯研修センター：『新たな認定社会福祉士への道』

【活動報告および紹介】

（委員会等）権利擁護センターぱあとなあ東京、権利擁護委員会、独立型・開業型委員会

（地区会）あだち、おおた、北区、ねりま、文京、板橋区

【展示】絵画工房たゆたう【絵画など】

特定非営利活動法人ソーシャルネット南のかぜ

終活ノート「わたしの物語をつぐむ～あすへのノート～」

5. 主催・共催・後援者等

- ・主催：公益社団法人東京社会福祉士会

- ・共催：北区社会福祉士会

- ・後援：東京都、北区、社会福祉法人東京社会福祉協議会、社会福祉法人北区社会福祉協議会、特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会、公益社団法人東京都介護福祉士会、一般社団法人日本社会福祉士養成校協会、社会福祉法人東京都育成会、NPO法人東京都発達支援協会、一般社団法人東京精神保健福祉士協会、公益社団法人日本社会福祉士会（順不同）

- ・協力：【区部北ブロック地区会】

板橋区社会福祉士会、ねりま社会福祉士会、豊島社会福祉士会、文京社会福祉士会

【地区会】区部東ブロック（江東、荒川、あだち、かつしか、江戸川）、区部西ブロック（杉並、渋谷、新宿区、なかの）、区部南ブロック（おおた、世田谷、目黒、品川、中央五区）、多摩南ブロック（八王子、まちだ、府中、調布、いなぎ、多摩、日野、こまえ）、多摩北ブロック（西多摩、清瀬・東久留米、立川、三鷹武蔵野、昭島、国分寺、東大和武蔵村山、小平、西東京市、東村山、くにたち、小金井）、島しょブロック（三宅島、八王子）

6. 事務局・問い合わせ

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-43-11 福祉財団ビル 5 階

公益社団法人東京社会福祉士会事務局（担当：渡會沙織、福井いずみ）

Tel : 03-5944-8466 Fax : 03-5944-8467

e-mail : social_workers_day@tokyo-csw.org

7. 当日の状況等

1) 参加者数：214 名

- ・所属：東京（152 人、71.0%）、埼玉（6 人、2.8%）、神奈川（4 人 1.9%）、千葉（2 人、0.9%）
未所属（44 人、20.6%）、未記入（6 人、2.8%）（N=214、SA）
- ・資格：社会福祉士（180 人、84.1%）、精神保健福祉士（52 人、24.3%）
介護福祉士（43 人、20.1%）、介護支援専門員（60 人、28.0%）、その他（38 人、17.8%）
（N=214、MA）

2) アンケート集計（回答数：85 件、回収率 39.7%）

（自由記載）

○今後、聞きたい、知りたいテーマ

- ・共生社会について（他同様 3 件）
- ・世代間の交流が図られている複合施設での実践例について知りたい
- ・地域の居場所、ソーシャルアクション、地域活動
- ・自立支援協議会との連携について
- ・地域密着型の活動について
- ・今後の社会福祉士としての専門性
- ・雇用（働く場）関連からの課題
- ・ソーシャルワーカーの課題
- ・認定社会福祉士の実践（研究）報告
- ・社会福祉士の倫理綱領など
- ・社会福祉士取得後に何年も SW として働かずに過ごしていたが、これからでも働くことは可能か。
- ・外国人介護従事者の展望や日本の役割について
- ・国際ソーシャルワーク実践の解釈
- ・司法福祉委員会の活動（司法福祉、再犯防止）（同様他 4 件）
- ・大人の発達障害について
- ・障害者の方の成年後見制度利用支援、親亡き後の支援（他同様 1 件）
- ・社会保障について

- ・生活保護受給者への支援、保護の今後の展開
- ・重複した課題をかかえる対象者（個人・家族・団体）に対するワンストップ型の支援
- ・行動・政府への提案ができる組織について
- ・障害者支援における支援者の専門性
- ・意思決定支援
- ・精神障害者の地域生活支援
- ・集合住宅での高齢化問題への対応
- ・就労支援のディスカッションの続き、公開講座
- ・大学ゼミ等との合同研修を行いたい
- ・ソーシャルワーカーの第一人者としてルーテル大学の先生の講演
- ・高良先生の話しをもう少し詳しく聞きたい
- ・今後も委員会共同や私たち自身がつながるテーマを考えていただきたい
- ・様々な実践研究について知りたい
- ・社会福祉士としての批判的思考を多くの立場から聞ける機会をもっと増やしてほしい
- ・参加型のものがよい多いと楽しいかもしれません。

○全体を通しての意見

(全体プログラムについて)

- ・全体のプログラム、案内が掲示できるとわかりやすかった
- ・展示はもう少し長くしておいていただきたい
- ・様々なプログラムがあり、十分にまわりきれず残念でした（他同様3件）
- ・職能団体主催の専門職が成果発表のみの場になっていない
- ・多職種との連携について、他職種などの意見なども知りたかったです
- ・時間をゆっくり取っていただきたいかった
- ・いろいろ自分で選択できてよかった
- ・良かった！が、各自の発表時間が短く消化不良も
- ・全体的に聴講者の参加が少ない

(基調講演)

- ・実践と理論の学びの重要性を知る良い機会になった（他同様3件）
- ・講演中に携帯電話の着メロが流れていた
- ・実践と理論を公表が大変必要で有意義であることを改めて学んだ（他同様2件）
- ・社会福祉士の仕事でも、このような倫理的で学術的な考え方がもっと広がればいいなと実感した

(パネルディスカッション)

- ・異なる分野での経験に裏付けられた発信を表明しあい理解する大切さを認識した
- ・バランス良く質問等を挟んだらもっと面白かったと思う
- ・「共生社会」について考えることができた
- ・とても考え深いものだった（他1件）
- ・時間が短い、時間配分を打合せ願います

- ・参加できず残念でした
- ・尊厳の保持と自立支援を常に考えるのに必要なテーマであり勉強になった
- ・企画、参加者も他分野で、国に訴えられる内容で最高でした
- ・地域共生社会「自立支援とは」がもっと聞きたかった

(その他)

- ・仕事と認定取得の両立は大変そうですが、前向きに検討したい
- ・会員となる魅力ある運営（会員増）
- ・くりかえし研究に関する勉強の機会がほしいと思いました
- ・みなさんの熱い意見を職場の実践に活かしたいと思います（他同様2件）
- ・いろいろな方と名刺交換ができ有意義でした。
- ・関わっている分野以外の話しが聞けて広い視野で考えることが大切と感じた（他同様7件）
- ・居宅介護支援の仕事に追われる中、根本に立ち返ることができた
- ・自己研鑽の良い機会となった（他同様3件）
- ・初めて社会福祉士の研究会に参加し、視野が広がった
- ・思った以上の来訪者と活気があり、嬉しく思った

8. 所感

昨年度の実践研究大会は、ソーシャルワーカーデーとの同時開催ということもあり、参加者の動員も比較的容易であったが、本年度は、かなり久しぶりの単独開催ということで、参加者の動員が読めない状況下での開催となった。

しかし、昨年度の実践研究大会において、アンケートの集計や運営にあたった者の感想を総括すると、社会福祉士における実践は重要であることは言うまでもないが、その実践を他者に対し伝えることは、極めて苦手としていることが見て取れること、および、その伝える手段や機会が極めて少ないことが確認されている。

実践を発表できる形にまとめるには、そもそも研究的視点や観点がなければならないのであるが、それらを涵養するには、定期的に発表する機会があることが重要であり、その機会の提供は、専門職団体の使命の一つであろうと考え、単独開催、しかも、毎年開催を企画したものである。

本年度の開催においては、発信機能、つまり、社会福祉士において、あまり重視されてこなかった、もしくは苦手としてきた「発信」をテーマにあげ、個人の実践にとどまらず、当会の活動である委員会や地区会等の活動を「発信」することにも注力した。

結果としては、当会の活動を体現する委員会等が、複数の委員会に働きかけ、協働することが出来ている。今回は3本のパネルディスカッションが企画され、それぞれ、作りこまれた、また核心に迫る内容であり、いろいろな分野・視座からの発言などを聞くことができ、好評を得ている。

個人の発表は、純然たる個人申し込みは4本にとどまったものの、基礎研修の履修者等への発表機会として周知することもできたことや、アンケートにも、実践を発表することの重要性について言及がみられたことから、今後、定期開催によって、より多くの発表が期待され、さらに、発表数のみならず、「実践研究」の名に恥じないものが多くなるのではないかと期待するものである。

(運営委員長 新堀)